

TODAY'S  
THERAPY 2004

今日の治療指針

私はこう治療している

■項目数、執筆者数とも過去最多

(1084項目, 1066名)

■本文各項目はすべて新執筆者  
により毎年全面新訂

■日常の診療に役立つ定評ある最新治療年鑑

医学書院

## 過眠症（ナルコレプシーを含む）

Hypersomnia (including Narcolepsy)

山田尚登 北津島病院・副院長（愛知）

### 病態と診断

過眠を呈する代表的な疾患には、ナルコレプシー、特発性過眠症、反復性過眠症、睡眠時無呼吸症候群などがある。睡眠時無呼吸症候群に関しては他項を参照されたい（⇒ 226 頁，1034 頁）。

#### A. ナルコレプシー

日中でもレム睡眠が出現しやすいのがこの疾患の病態である。主要症状は、①睡眠発作（日中の耐え難い過剰な眠気）、②情動脱力発作（発作性に起こる筋緊張の低下）、③睡眠麻痺（金縛り）、④入眠時幻覚、⑤睡眠の分断化である。すべての症状がなくても、①と②があればナルコレプシーとして診断可能である。睡眠ポリグラフで入眠時レム睡眠の出

現、HLA 型判定で DR2 陽性であれば、診断は確定的である。

#### B. 特発性過眠症

主要症状は日中の過眠であるが、ナルコレプシーと異なり情動脱力発作はなく、仮眠後に爽快感がない。HLA - DR2 の陽性率は一般人口と同じ。

#### C. 反復性過眠症（周期性過眠症）

数日から1週間程度持続する過眠期が数か月から数年の周期で反復する。過眠期に過食や性欲亢進を伴う場合には Kleine - Levin 症候群とよばれる。

### 治療方針

#### A. ナルコレプシー

1. 生活指導 規則正しい日常生活を送り、睡眠不足を避ける。30分程度の昼寝をする。自動車の運転や危険な作業は避ける。

#### 2. 薬物療法

a. 睡眠発作に対して 中枢神経刺激薬を用いる。入眠困難を避けるため夕方には服用しない。

**〔R 処方例〕** 下記のいずれかを用いる

- 1) リタリン錠 (10 mg) 1-6錠 分1-2 朝・昼食後
- 2) ベタナミン錠 (25 mg) 1-3錠 分1-2 朝・昼食後

b. レム睡眠関連症状に対して 情動脱力発作、入眠時幻覚、睡眠麻痺、入眠時幻覚などに対して、レム睡眠抑制作用のある抗うつ薬を用いる。

**〔R 処方例〕** 1) の効果が不十分の際は日中のレム睡眠を抑えることを目的に、2) を追加する。

- 1) アナフラニール錠 (25 mg) 1錠 分1 眠前 (保険適用外)
- 2) アナフラニール錠 (10 mg) 1錠 分1 朝食後 (保険適用外)

c. 睡眠分断に対して ベンゾジアゼピン系の睡眠薬を用いる。

**〔R 処方例〕** 下記のいずれかを用いる

- 1) サイレース錠 (1 mg) 1錠 分1 眠前
- 2) マイスリー錠 (10 mg) 1錠 分1 眠前